

交通局

信頼を心で運ぶ市バス・地下鉄

横浜の市営交通は、住宅地から鉄道駅、都心部、公共施設などを結ぶバス路線網と、基幹交通として市を縦断する地下鉄（ブルーライン・グリーンライン）により、市民の皆さんに身近な公共交通機関としての役割を果たしています。

市営バスは、昭和3年に営業を開始して以来、横浜市発展とともに事業規模を拡大し、現在は市中心部を主な営業エリアとして、市内最大規模の143路線を運行し、1日平均約30万人のお客様にご利用いただいております。

市営地下鉄は、路面電車にかわって昭和47年12月から営業を開始し、現在ではブルーラインが湘南台～あざみ野間（40.4km・32駅）で横浜中心部と地域の拠点をつなぎ、グリーンライン（平成20年3月営業開始）が中山～日吉間（13.0km・10駅）で横浜市北部の市民の皆さんの足として役割を果たしています。現在2路線合計で1日平均約61万人のお客様にご利用いただいております。

交通局は、将来にわたって市民の皆さんに真に必要な「市営交通」となるため、今後も市民の皆さんの足として、安全・確実・快適な交通サービスを提供し、お客様にご満足いただける市バス・地下鉄を目指してまいります。

市営バスの運営

■バスの営業（営業課、路線計画課、運輸課）

市営バスは市中心部を主な営業エリアとし、1日平均約30万人のお客様にご利用いただいております。一般乗合バスのほか、路線バスの貸切も行っています。

令和5年度バス運輸現況

表1 一般乗合バス運輸概要 令和6年3月31日現在

営業キロ	515.0km
運転系統数	143系統
系統長	平均7.1km
停留所数	1,265か所
在籍車両数	788両
運転車両数	1日平均628両
運転キロ数	1日平均約7万km
乗客数	1日平均30万人



走行中の市営バス

表2 バス運輸実績

令和5年度

種別	年間（決算）	1日平均	
運転車両	計（両）	237,786	650
	一般乗合	230,283	629
	市内遊覧	0	0
	貸切	7,503	21
運転キロ	計（km）	25,994,207	71,022.4
	一般乗合	25,456,507	69,553.3
	市内遊覧	0	0
	貸切	537,700	1,469.1
乗車人員	計（千人）	112,864	308.3
	一般乗合	111,455	304.5
	市内遊覧	0	0
	貸切	1,409	3.8
乗車料収入	計（千円）	19,406,528	53,023
	一般乗合	19,096,447	52,176
	市内遊覧	0	0
	貸切	310,081	847

（注1）乗車料収入は税込み。

（注2）四捨五入の関係で、内訳と合計が一致しない場合があります。

■施設の整備及び利便性の向上 （営業課、路線計画課、運輸課）

バス停留所上屋、ベンチの更新

老朽化したバス停留所の上屋、ベンチなどを更新し、バス利用をより安全で快適なものにしていきます。

平成16年度から民間事業者と契約し、交通局の財政的負担のない広告付上屋を設置しています。（令和6年8月現在270基）

路線の再編整備

お客様の需要動向や採算性、効率性を考慮しながら、バスサービスのさらなる充実・強化、ダイヤの改善による定時性の向上や地下鉄・他鉄道との接続改善に取り組んでいます。

走行環境の改善

運行の支障となる箇所を改善を図り、バスが安全に運行できるよう、関係機関への要望・調整を行っています。

交通安全啓発（運輸課、営業所）

地域の小学校等と連携して、バスの乗り方教室・交通安全教室・バリアフリー教室などを開催しています。また、バスに関する事故防止のため、交通安全動画等の配信や、市立小学校の新1年生全児童に交通安全リーフレットの配付を行っています。



交通安全教室



交通安全動画

バリアフリーの向上（車両課）

どなたにも利用しやすいバスネットワークの構築に向けて、平成8年度から、車いすのお客様にもご利用いただけるよう、中扉にスロープ板を備えたバス車両を導入しています。令和5年度末現在、ノンステップバス761両、ワンステップバス27両を保有し、ノンステップバス導入率は96.6%、ワンステップバスを含むバリアフリー適合率は100%となっています。（一般乗合）

環境対策の推進（営業課、車両課）

バスはマイカーと比較すると利用者1人当たりの二酸化炭素（CO₂）排出量が少なく、“地球にやさしい”交通手段です。市営バスでは地球温暖化防止など環境対策



スロープ板

に力を入れています。

最新排出ガス規制適合車への更新促進

自動車の排出する窒素酸化物（NO_x）などの総量減のため、最新排出ガス規制適合車への車両更新を引き続き進めます。

ハイブリッドバスの導入（令和5年度末現在：159両）

モーターを用いてエンジン出力を補助することにより粒子状物質（PM）、二酸化炭素（CO₂）排出量を削減した低公害バスです。

燃料電池バス（FC）の導入

次世代エネルギーとして注目されている水素を燃料とした燃料電池バス（FC）を令和元年11月から運行しています。このバス車両は、走行中にCO₂や環境負荷物質を排出しない優れた環境性能を有しており、令和4年度に2両追加導入し、引き続き水素ステーションの整備状況、車両費や燃料費の動向を踏まえながら今後の導入について検証します。



FCバス

市内観光事業等の展開（営業課）

貸切バス

学校の遠足や自治会、企業のイベントなど大人数が移動する際に、3種類のバス（リムジン型・路線バス型など）をお貸ししています。

料金は時間及び距離で決定します。市内だけでなく県外への移動にもご利用いただけます。

貸切バスをご利用のお客様が安全・安心にご利用いただける取組を継続するとともに、企業従業員の送迎バスとしての活用をはじめ、地域団体や旅行事業者、

客船シャトルバスなどの需要に応じています。

また、本市事業に合わせて送迎バスを運行するなど、本市施策の一翼を担っています。

■バス営業所・定期券発売窓口（営業課）

市営バスでは、10か所の営業所において運行を行っています。

また、お客様サービスセンターや定期券発売所、一部の営業所において、バス定期券を発売しており、バス路線図や詳しい案内パンフレットなども用意しています。（表3、4参照）

■観光・コンベンション機能強化を支える取組（営業課）

観光スポット周遊バス「あかいくつ」

横浜都心部の観光スポットをレトロ調バスで周遊する「あかいくつ」は、車内で観光情報も案内しています。

周遊ルート：桜木町駅前→ハンマーヘッド→赤レンガ倉庫・マリン&ウォーク→中華街→港の見える丘公園前→大さん橋客船ターミナル→赤レンガ倉庫前→桜木町駅前

（注）定期券、敬老特別乗車証・福祉特別乗車券などではご乗車できません。

BAYSIDE BLUE（ベイサイドブルー）

全長約18mの連節バス「BAYSIDE BLUE（ベイサイドブルー）」は横浜駅から出発し、水際線沿いを山下ふ頭まで運行します。

運行ルート（下り）：横浜駅前（東口）→パシフィコ横浜→カッブヌードルパーク・ハンマーヘッド入口→山下公園前→山下ふ頭

運行ルート（上り）：山下ふ頭→中華街入口→赤レンガ倉庫前→ハンマーヘッド→パシフィコ横浜→横浜駅改札口前

表3 バス営業所 令和5年8月1日現在

営業所名	所在地	電話番号
保土ヶ谷営業所	保土ヶ谷区川辺町 4-2	045-331-2401
若葉台営業所	旭区若葉台 2-15-1	045-921-0581
浅間町営業所	西区浅間町 4-340-1	045-311-2251
滝頭営業所	磯子区滝頭 3-1-33	045-751-5548
本牧営業所	中区本牧元町 45-1	045-621-1071
港南営業所	港南区日野南 3-1-1	045-833-1511
港北営業所	港北区大豆戸町 581	045-545-1804
鶴見営業所	鶴見区生麦 1-3-1	045-501-0701
緑営業所	緑区白山 1-10-1	045-931-2266
磯子営業所	磯子区森 3-1-19	045-751-7581

（注）緑、磯子営業所は、運行业務を横浜交通開発（株）に委託しています。

ぶらり三溪園 BUS ※土休日運行

運行ルート：横浜駅前（東口）～桜木町駅前～中華街入口～三溪園

ぶらり野毛山動物園 BUS

運行ルート：横浜駅前（東口）～びあアリーナMM～桜木町駅前～野毛山動物園前～一本松小学校前

みなとぶらりチケット（横浜観光一日乗車券）

横浜の主な観光スポットが集中するベイエリア周辺の市営バス・市営地下鉄・神奈中バスに1日乗り放題のチケットです。

観光施設やショッピング施設、博物館など120以上の施設で、特典も受けられます。

適用区間：市営バス・神奈中バス（横浜駅東口～元町・港の見える丘公園、三溪園、関内・伊勢佐木町～横浜橋・中村橋、滝頭）

地下鉄（横浜駅～吉野町駅）

連節バス「BAYSIDE BLUE（ベイサイドブルー）」、観光スポット周遊バス「あかいくつ」、ぶらり三溪園BUS、ぶらり野毛山動物園BUS（横浜駅前～野毛山動物園前）全線

料金：大人 700円、小児 350円

（注1）「みなとぶらりチケットワイド」(大人750円、小児380円)は、上記の適用区間に加え、新横浜駅で乗降できます。

（注2）「みなとぶらりチケット」に京浜急行の往復割引乗車、みなとみらい線のフリー乗車がついた「横浜1DAYきっぷ」も発売しています。（取扱いは京急のみ）

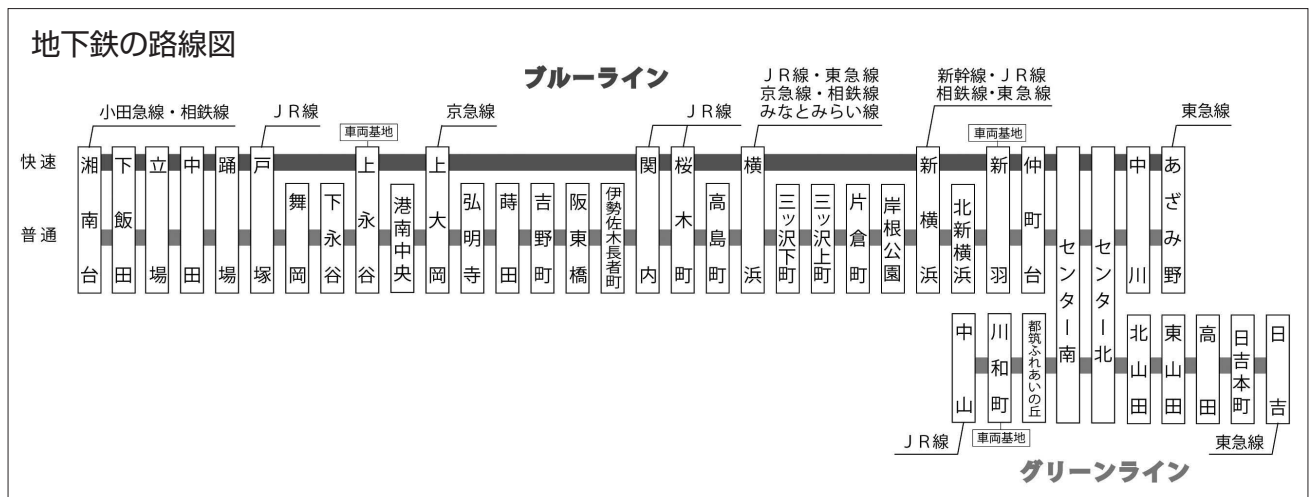
（注3）スマートフォンアプリ「my route」や、アジア圏の観光客に強い、旅行・レジャー予約アプリ・ウェブサイトの「Klook」でも、みなとぶらりチケット及びみなとぶらりチケットワイドを発売しています。

表4 定期券発売窓口 令和5年8月1日現在

定期券発売窓口	営業日	電話番号
地下鉄駅構内	横浜駅お客様サービスセンター	045-311-3299
	上大岡駅お客様サービスセンター	045-844-7100
	センター南駅お客様サービスセンター	045-943-4651
	新横浜駅お客様サービスセンター	045-472-9193
横浜駅東口バス定期券発売所	毎日	045-465-2040
鶴見駅東口バス定期券発売所	月～土 日、祝日休業ただし繁忙期は営業	045-501-5270
中山駅前バス定期券発売所	月～土 木・日・祝日休業ただし繁忙期は営業	045-933-0022
バス営業所(保土ヶ谷、若葉台、滝頭、本牧、緑、磯子)	月～金(祝日を除く)	表3のとおり

（注）営業日及び営業時間は窓口によって異なりますので、交通局ホームページをご確認ください。年末年始の営業日についても、交通局ホームページをご確認ください。バスのICカード定期券は、上記発売窓口のほか、地下鉄の各駅でも購入できます。なお、地下鉄の定期券は、横浜駅、上大岡駅、センター南駅のお客様サービスセンターのほか、地下鉄の各駅でも購入できます。鶴見駅東口バス定期券発売所及び中山駅前バス定期券発売所は、3月下旬、4月上旬、9月下旬等において一部の日曜日も営業します。

地下鉄の運営



令和5年度地下鉄運輸現況

表5 地下鉄運輸概要

令和6年3月31日現在

区 分		ブルーライン（1・3号線）	グリーンライン（4号線）	
線区概要	営業区間	あざみ野～湘南台	中山～日吉	
	営業キロ	40.4km	13.0km	
	駅数	32駅（地下27駅、地上5駅）	10駅（地下7駅、地上3駅） センター北・センター南は共用駅	
運転概要	所要時間	普通68分、快速60分（ラッシュ時を除く）	21分	
	平日運転間隔	朝混雑時	4分40秒	3分30秒
		昼間時	8分30秒～10分	10分
		夕混雑時	6分	6分
	運行回数	平日172回、土休日156回	平日174回、土休日136回	
車両編成	6両	4両（一部6両）		
車両	使用車両	3000形（A、N、R、S、V）、4000形	10000形	
	保有車両	222両（37編成）	80両（17編成）	
	車両基地	上永谷・新羽	川和	

表6 地下鉄運輸実績

令和5年度

区 分		年 間	1日平均
乗車人員（千人）	総数	222,346	607
	定期	135,091	369
	定期外	87,255	238
乗車料収入（千円）	総数	41,099,362	112,294
	定期	18,956,096	51,793
	定期外	22,143,266	60,501

(注1) 乗車料収入は税込み。

(注2) 四捨五入の関係で、内訳と合計が一致しない場合があります。



ブルーライン 4000 形車両

■地下鉄の営業（営業課、運転課）

市営地下鉄ブルーラインは、昭和47年の開業以来着実に路線を延ばし、現在、横浜市域北部のあざみ野駅から市中心部を抜け、隣接する藤沢市湘南台駅までの40.4kmを運行しています。また、平成20年3月には、中山駅からブルーラインのセンター南駅・センター北駅を経由し、日吉駅に至る全長13.0kmのグリーンラインが開業しました。

現在、市営地下鉄は、ブルーライン、グリーンラインを合わせ53.4kmを運行し、都心と副都心、街と街をつなぎ、1日平均約61万人のお客様を運ぶ横浜の基幹交通として沿線地域の発展に大きな役割を果たしています。

■安全対策（駅務管理所、運転課、施設課、車両課、建築課、電気課）

地震対策

気象庁の観測データを受けて地震の大きな揺れが到達する前に走行中の列車を自動的に止め、被害を軽減する「早期地震警報システム」を設置しています。また、大規模地震発生後に早期に列車の運行を再開するために、駅部を含めた高架橋・トンネルの耐震補強を進めています。

津波・浸水対策

地震による津波が発生した場合の対応マニュアルの整備や訓練の実施などの取組を強化するとともに、トンネルからの避難口や、停電時でも津波浸水区間の列車を次駅まで走行させるための大容量蓄電池を設置しています。

また、浸水対策として駅出入口に止水板を、道路面にある通風口に浸水防止機を設置しています。

施設の老朽化対策

開業から50年以上経過したブルーラインにおいて施設の点検を進めるとともに、特に沿岸部の海水による塩害が進んでいる区間の軌道補修、老朽化したトンネル補修に取り組み、安全性を高めています。また、設置から長期間経過したエレベーター・エスカレーターの更新を順次行っています。

ホームの安全対策

全駅に設置したホームドア（可動式ホーム柵）により、ホームからの転落や電車との接触等の事故を防止し、一層安全な運行に努めています。

応急処置対策

お客様の人命を守るため、応急処置手当や迅速な対応ができるよう駅係員と乗務員が普通救命講習を受講しています。

また、全駅に「AED」を設置し、お客様の人命救助に備えています。

地下鉄車両の電気機器の予防保全

地下鉄車両は、走る、止まる、その他各種サービスを提供するために多くの電気機器を搭載しています。それらの機器は、著しい温度変化や湿気、振動、衝撃等の厳しい環境におかれており、経年劣化します。一般的に電

気機器は経年劣化に伴い故障率が上昇するため、電気機器を更新することで、車両の安全性を維持しています。

令和5年度からブルーライン3000N形車両の機器更新を開始しました。また、グリーンラインでは令和6年度末までの6両化工事に合わせて機器更新を完了する予定です。

■ワンマン運転の安全性の維持・向上（運転課）

ブルーラインは平成19年12月、グリーンラインは平成20年3月の開業からワンマン運転を実施しています。乗務員は運転席のモニター画面の指差確認・称呼の徹底や機器類の確実な操作を実施し、安全運行の向上を図っています。

トンネル内には限界支障センサーを設置し、センサーが反応した場合は、その反応したエリア内を停電させ、列車を緊急停止させます。また、各車両に4箇所ずつ、非常通報装置を設置しています。通報時に乗務員が対応できない



グリーンライン10000形車両

場合は、総合司令所が応答し、車内での非常時の速やかな対応を図っています。

■ブルーライン快速運転（運転課）

ブルーラインでは、平成27年7月から快速運転を実施しております。快速運転の実現により、主要駅間の速達性や利便性が向上するとともに、港北ニュータウンを中心とする市内北部や南西部等と都心部のアクセスが向上し、市域の一体化やバランスある発展を図ります。

■車内マナー向上（営業課）

車内マナー向上のため、車内放送やポスター等の取組を中心に啓発活動を行っています。

平成24年7月から真に座席を必要とするお客様が利用しやすくなるよう、特に席の譲り合いをお願いする「ゆずりあいシート」を各車両に設置しています。

また、平成23年度から、(一財)横浜市交通局協力会と都市整備局との共催で、小学生を対象に乗車マナーをテーマとしたポスターコンクールを実施しています。

資産の活用（資産活用課）

交通局資産（駅・車両・所有土地等）について、市場価値を十分に活かし、駅構内・高架下の開発や土地の貸付、広告事業の運営等、収益事業を推進しています。

駅構内では、お客様のニーズに応える魅力的な店舗の誘致やATM設置等により利便性向上を図っているほか、高架下等の交通局所有地では、店舗や駐車場・保育園等へ貸付を行い、収益を確保しつつ賑わい向上に寄与しています。

広告事業では、デジタルサイネージ・車内ビジョン等デジタル化の推進や、大型広告ボード・ラッピングバス等、変化する広告ニーズを捉え、増収を図っています。

市営交通情報

横浜交通 hama-eco カード

交通局では、市営バス・地下鉄の定期券が購入できるクレジットカード「横浜交通 hama-eco カード」について、三井住友カード株式会社と提携しています。

このカードで、市営バス・地下鉄の定期券を購入すると翌年度のカード年会費が無料になるほか、「パスポートチャージ」や電子マネー「iD」にも対応しています。



横浜交通 hama-eco カード

交通局ウェブサイト

市営バス、地下鉄をご利用いただいているお客様をはじめ、幅広く、手軽に市営交通事業の情報を取得できるようウェブサイトを開設しています。

交通局の最新情報以外にも、市営バス、地下鉄の運賃・経路検索、時刻表、路線図のほか、お楽しみ情報、職員採用情報、お問合せ先などを見ることができます。

(URL <https://www.city.yokohama.lg.jp/kotsu/>)

市営バス・市営地下鉄運行情報

多くのお客様がPC・スマートフォン・携帯電話でインターネットを利用されていることを踏まえ、市営バス・地下鉄の時刻表・経路検索・遅延証明書のほか、リアルタイム情報として、市営バスの混雑情報・接近情報や市営地下鉄の列車走行位置・遅延情報など、インターネットでの運行情報提供サービスの充実を図っています。

(URL <https://navi.hamabus.city.yokohama.lg.jp/>)

横浜市電保存館

所在地 磯子区滝頭3-1-53

TEL 045-754-8505

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日 毎週火曜日・水曜日（祝日は開館、振替休館なし）
及び年末年始（12月29日～1月3日）
横浜市立小学校の春休み、夏休み、冬休みは無休

昭和47年に廃止されるまで市民の皆さんの足として親しまれていた横浜市電の車両やパネルを展示しています。また、新たなジオラマゾーン（ハマジオラマ）や横浜の発展と都市交通のあゆみをテーマとした歴史展示コーナーもあります。



かつて横浜を駆け巡った市電を当時の姿で7両展示